

〈小学校図画工作部会〉

I 研究主題

「感性を高め豊かな情操を養う鑑賞指導の工夫と評価の在り方」

II 研究の概要

図画工作部会では、平成13年度は、「A表現(2) 絵や立体に表したり、工作などに表す」について、平成14年度は、「A表現(1) 材料などをもとにした楽しい造形活動(造形遊び)」について研究開発を行った。現行の学習指導要領には、図画工作科ではぐくむ資質や能力は、表現活動と鑑賞活動が一体となり働き合って高められる点と、鑑賞活動の充実に向けての取組の重要性が示されている。本年度は、この「B鑑賞」における指導の工夫と評価の在り方について、指導と評価の一体化の視点から研究開発を行った。

III 研究の内容

1 鑑賞活動ではぐくむ資質や能力(学習指導要領解説・図画工作編より)

《表現活動と鑑賞活動》 = 人間にとって生涯にわたり日常的に行われる活動

《図画工作科における鑑賞活動》 = 児童が自分たちの造形活動や親しみのある美術作品などを見たり触れたりし、自分の感じ方や見方を基にして、よさや美しさなどの感覚や感性を高める学習活動



自分の周りの環境の中から、価値あるものに気付く感覚や深く感じ取るような人間らしい感性を高め、美しいものや崇高なものに感動する豊かな心を養う。

《図画工作科の鑑賞活動ではぐくむ資質や能力》

人間が日常性の中で、自ら進んで見たり、触れたり、感じたりすることで、よさや美しさなどに気付き、想像力を働かせながら感じ方や見方を深め、生涯にわたってみずみずしい豊かな感性を高め続けていくための資質や能力

学習指導要領には鑑賞活動において、鑑賞の対象や鑑賞の仕方を幅広くとらえ、児童が思いのままに感じ取り味わう活動や、作品について面白かったことや楽しかったこと、よかったことなどについて話し合い、感じ方や見方を深める活動の重要性が示されている。

図画工作部会では、このように鑑賞活動の対象を、児童のお互いの作品、児童の興味をひく作品や身近な美術作品、そして、身の回りの環境や自然まで幅広くとらえ、児童が自由に感じ、気付き、考える活動と、児童が相互に感じ方を深め合う活動を重視し、具体的な授業実践を通し、鑑賞活動における指導の工夫と評価の在り方を研究・検証し、児童の生活全般における鑑賞活動の重要性について考察した。

2 鑑賞活動の重要性

人間の知覚や感覚を通して得られる情報は言語的に整理された内容のものよりも、漠然としたイメージの世界の方が圧倒的に多い。言語化された世界とともにそのような世界とも向き合い、よいものをよいと感じたり、楽しんだり、味わったりするのが鑑賞活動である。

広い意味での鑑賞活動は、意識はされていなくても乳幼児期から自然に行われている行為である。

子どもは、幼い頃から身の回りの環境に刺激を受けて、身近なものを見つめたり、感じたりして自分らしい感じ方や見方を持つようになる。これらの、周囲から何かを感じたりする体験や、身近なもので遊んだりする体験などは、子どもの成長にとって必要な行為であり、一見無意味に見えるような遊びなども、表現活動であるとともに鑑賞活動なのである。

表現活動（働きかける活動）と鑑賞活動（働きかけられる活動）は互いに一体化し、表現と鑑賞の相互作用によって、自分らしい活動として成立する。それは、決して外からの力によって動かされる対応的な行動としてではなく、自分を取り巻く様々な環境との関連の中で、自分の内にあるもの（＝自分が感じ考え表現したいこと）を外に押し出していくような主体的・表現的な行動として表れる。そのような活動の中で自分らしさは発現され、喜びを実感するのである。

子どもは、遊びや様々な行為の中での鑑賞活動を通して、素材の大きさ、重さ、材質感や、よさや美しさなどを、自身の全ての身体感覚によって実感し、感覚や感性がはぐくまれていく。

しかし現代の子どもたちの日常生活や遊びの中では、テレビやパソコンなどのメディアを通して楽しむようなバーチャルな体験が強い影響力を持ち、膨大な情報や強烈で刺激的な情報が猛スピードで子どもたちの周りを駆け巡り、じっくり見つめたり味わったりする活動が著しく減少しているように思われる。子どもたちの世界の中に、自然に直に接して美しさや素晴らしさを実感したり、身の回りの環境をじっくり見つめ、その中からよさや美しさを発見したり、様々な芸術作品に触れ感動したりするような機会や場の充実を図ることにより、価値あるものに気付く感覚やみずみずしい豊かな感性をはぐくんでいくことは、極めて重要であると考えられる。

図画工作科の鑑賞活動は、児童が鑑賞活動の面白さや楽しさを実感しながら、様々な資質や能力を積極的に働かせることによって、児童の感覚や感性を高め豊かな情操を養うことを目指し、意図的計画的に行なわれる学習活動である。ここではぐくまれるこれらの資質や能力は、全ての教科にもかかわる重要な資質や能力であり、鑑賞活動の充実は、子どもたちの知性・感性・徳性のバランスのとれた育成、[生きる力]の育成における重要な課題なのである。

3 鑑賞活動における指導と評価

【内容項目の構成《B鑑賞》について】（学習指導要領より）

（第1学年及び第2学年）かいたり、つくったりしたのを見ることに関心をもつようにする。

（第3学年及び第4学年）作品などのよさや面白さなどに関心をもって見るようにする。

（第5学年及び第6学年）作品などを鑑賞し、それらのよさや美しさに親しむようにする。

図画工作科ではぐくむ資質や能力は、4観点で示されており、鑑賞活動の領域においては、「造形への関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」の2観点である。

学習指導要領解説・図画工作編に示されているように、本来、かいたりつくったり（表現）する力と、見たり感じたり（鑑賞）する力は、一体的に働き補い合って高まるものである。

したがって、鑑賞をすべての学年で独立して扱うことができるようになったとはいえ、表現活動と関連付けた鑑賞活動の在り方が重要であり、実際の活動においては、ただ鑑賞のみを取り上げて指導するというものではないが、具体的な資質や能力がどの程度身に付いているかを、一人一人の児童についての的確に判断するために、分析的な評価を行う必要がある。

(1) 鑑賞活動における指導のポイント

○能動的な鑑賞活動の充実

鑑賞活動の領域において2観点で示された資質や能力をはぐくむためには、教師の説明を聞いてただ感想をまとめるなどの、受動的な活動ではなく、学習指導要領解説・図画工作編に示されているように、児童が能動的にかかわり、資質や能力が生き生きと発揮される鑑賞活動の工夫が重要である。

- ・見慣れた環境を児童が新しい視点で見つめ直し、新たな発見の喜びを味わえるような活動の設定。
(⇒指導事例 1)
- ・児童自身が自分の感じ方や見方で美術作品を選んだり、感じたことなどを表現する活動の設定。
(⇒指導事例 2・3)

○児童が自由に感じ気付き考えることを大切にしたい指導の充実

《児童の状況》

- ・関心・意欲をもてない。
- ・どうしたらいいかわからない。

他の児童の声や、教師自らが感じたり気付いたこと、特に面白さなどを伝え、一緒になって鑑賞活動することを通して、触発していくことが重要である。

感じたこと、気付いたこと

- ・自分の感じ方に自信がもてない。
- ・正しいか間違っているかを気にしてしまう。

このような傾向は、低学年からすでに見られる。児童への個別の働きかけが重要である。

- ・自由に感じ気付くことの素晴らしさを伝える。
- ・感じたこと気付いたことを褒める。

○話し合いなどを通し、感じ方や見方を深める活動の充実

楽しく話し合い活動や相互作品鑑賞ができる場面を設定し、児童の感覚や感性が自然と高められることを目指す。

- ・様々な意見を自由に発表し合える場を設定する。
- ・その上で、ただ自由に話し合わせるだけでなく、教師の的確なリードが重要である。

《児童の状況》

- ・言葉でどう表現したらいいかわからない。
- ・発表するのが苦手である。
- ・深め合い高め合う話し合いにならない。

教師自らが、言葉で表現する例を示したり、注目すべき視点を指し示す。一人の児童の発言をきっかけにして、様々な異なった意見を発表させたり、理由を説明させたりして、意見交換の活性化を図る。

美術作品に関しては、作者の意図や作品のすばらしさなどについて、子どもたちの状況に応じて、適宜、情報提供していく。

(2) 鑑賞活動における評価のポイント

鑑賞活動の領域においては、「造形への関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」の2観点で示された資質や能力について、その実現状況をとらえる評価が求められる。

国立教育政策研究所が「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」に示した図画工作科の評価規準例を参考にして、題材の評価規準と学習に即した具体的な評価規準を設定し、目標に準拠した評価を行う。図画工作科ではぐくまれる資質や能力は幅のある範囲を示すものであるため、例えば、できたかできなかったや、分かったか分からなかった等の境界線を指し示すための評価規準ではなく、状態を示すような面的な評価規準の設定が重要であり、上記評価規準例はまさにその視点からつくられている。

鑑賞活動の評価は、児童が例えば、

- ①自分の思いをもち、進んで活動し喜びを味わおうとしながら、
- ②自分らしい感じ方や見方をもとにして、
- ③対象のよさや美しさなどを素直に感じ、
- ④見方を変えてみたり、他者の感じ方や見方と交流したりすることを通して、
- ⑤感じ方や見方を深めていく…

という一連の活動を通して、様々な具体的な場面で、児童の資質や能力がいかにか生き生きと発揮されているかを評価するものでなければならない。このような活動の過程において、児童の発言や発語、つぶやきや表情、振る舞いなどの様子をもとに、教師は適宜、個に応じた指導の手立てを講じるわけであるが、このような形に残らない情報を、評価補助簿等に、できるだけ記録として残していく工夫が必要である。(⇒指導事例 1・2・3)

また、学習カードの活用も非常に重要である。児童が自分の言葉で自由に記述したり、シールを貼ったりして、楽しく取り組めるような工夫も必要である。(⇒指導事例 1・2・3)

IV 指導事例1 (表現⇒鑑賞) 第2学年「すてき発見」(2時間)

- (1) 題材の目標 自分の思いに合わせて工夫して飾り付けた万華鏡を通して、見慣れた景色の中に新たな美しさ、面白さを見付け、発見したすてきなところを教えたり、教わったりして、楽しく鑑賞活動する。

Point

この題材により、児童が自作の万華鏡をつかい、見慣れた校庭の景色の中から普段気付かなかった美しさや面白さを発見することにより、身近な環境の中の美しさを感じ取る感性を育てる。

- I 低学年の鑑賞題材を選ぶ際・・・児童の身近にある自然(水溜りに写った景色や見上げた木々の木漏れ日等)や生活で使うもの、自分や友達の作品等、身近な環境に目を留め、感性をはぐくんていく題材を選びたい。
- II 低学年の鑑賞学習では・・・児童が互いに交流し合う中で、「私も同じように感じたよ。」「教えてくれて、嬉しかったよ。」と、友達と共感したり、友達のよさを見付けたりする心の交流を大切にしたい。

(2) 題材の評価規準及び学習活動に即した具体的な評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
万華鏡を通し新たな美しさ、面白さを見付けることに興味をもち、進んで友達と交流し、共に楽しんでいる。	タック紙をつかい、自分らしい飾りを発想する。	タック紙の中からつかいたい色を選び、つくりたい形を切り取り、飾りをつくらうとする。	万華鏡を通して見える世界の形や色の美しさ、面白さを見付けたり、友達の発見したことを聞いたりして、美しさを感じ取る。
①楽しく万華鏡をつくらっている。 ②万華鏡を通して見ることを楽しみ、新たな景色を発見している。 ③自分の発見した美しさを進んで友達に伝え、友達の発見したすてきなところを聞き、共に楽しんでいる。	①タック紙をつかい、自分らしい飾りを発想する。	①タック紙の中からつかいたい色を選び、つくりたい形を切り取り、飾りをつくらうとする。	①万華鏡を通して見た形や色の美しさ、面白さを見付けている。 ②自分の発見したすてきなところを友達に伝え、友達から教えてもらう交流の中で、新しい美しさや面白さを感じ取っている。

《「十分満足できる」状況(A)と判断する具体的な視点》

ア 造形への関心・意欲・態度

- ・意欲的に発見しようとし、見る位置や角度を変えている。
- ・積極的に友達と関わりながら、新たな発見を楽しんでいる。…

イ 発想や構想の能力

- ・自分の構想に向けてつくりながら、次々と新たな形の楽しさを発見している。…

ウ 創造的な技能

- ・自分の思いに合わせて、切り方や貼り方を工夫してしている。…

エ 鑑賞の能力

- ・いつもと違って見える校庭の景色を、じっくり見つめながら深く味わっている。…



(3) 題材の指導と評価の計画

時	学習活動	評価 規準	(C) と判断される子ども の状況	(C) と判断した児童への手立て
1	<p>万華鏡をつくろう</p> <p>○万華鏡の仕組みをつくる。 ○タック紙をつかい万華鏡に飾りを付ける。</p>	<p>ア① 作業観察</p> <p>イ① 作品・作業観察</p> <p>ウ① 作業観察</p>	<p>・万華鏡をつくることに興味を示さない。</p> <p>・どのように飾りを付けようか考えられずにいる。</p> <p>・はさみでうまく切れないため、飾りをつけることに投げやりになっている。</p>	<p>自分だけのすてきな万華鏡をつくろうね。</p> <p>⇒飾り方の事例や飾った子の様子を示す。 ⇒切るものとはさみが垂直になるように指導し、楽しく飾りがつくれるようにする。</p>
2	<p>校庭に出て景色を見てみよう</p> <p>○万華鏡を通して見ることで、見慣れた景色から、新たな美しさや面白さを見発見する。 ○発見したすてきなところを絵地図に書き込む。【校庭の図に星のシールを貼る】</p> <p>発見したすてきを教え合おう</p> <p>○自分の発見したすてきなところを友人に伝える。 ○友達の発見したすてきなところを教えてもらい、その中の美しさや面白さを感じ取り、共に楽しむ。【ハートのシールを貼る】 ○学習を通して気付いたことを発表する。</p>	<p>ア② 行動観察</p> <p>エ① 行動観察</p> <p>ワークシート</p> <p>ア③ 行動観察</p> <p>エ② 行動観察</p> <p>ワークシート</p>	<p>・すてきなところを発見しようとしなない。</p> <p>・友達と交流できずにいる。</p>	<p>どんな風に見えるのかな 写真と同じところはどこかな？</p> <p>⇒その児童の発見したすてきなところを教えてもらい、発見した内容に自信をもたせる。</p> <p>すてき！○○さんにも教えてあげよう。</p>

(4) ワークシートと評価補助簿の活用

すてき はっけん
○こころがはなやかに、すてきなところを見つけてみよう。

○すてきなところを見つけたら、ハートのシールを貼ろう。

○すてきなところを見つけたら、すてきなところのハートのシールを貼ろう。

1月27日の校庭の景色が、とてもきれいだったので、今日は、みんなでおもしろいことがいっしょに出たよ。また、色んな所を見つけたよ。みんなもがんばって、すてきなところを見つけて、みんなが楽しめるようにしよう。

友達から発見したすてきなところを教えてもらい、その場所にハートのシールを貼っていく。交流が増すごとにハートのシールが増えていく。

・個人カルテ形式の例 (A)や(C)と判断した状況は必ず記入

2学期 2年2組・氏名○○ ○○					
月日	単元名	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
9月2日	ローラー ゴージャ	A・B・C	A・B・C ローラーの向きや色の重なりを工夫しリズム感を出す	A・B・C	A・B・C
9月9日	わたしの おさるさん	A・B・C	A・B・C	A・B・C	A・B・C
10月27日	万華鏡を つくる	A・B・C	A・B・C 重なりのおもしろさに気付き構想の工夫をする	A・B・C	A・B・C
10月27日	すてき はっけん	A・B・C	A・B・C 近くにいる友達に教えるように促す一交流を始める	A・B・C	A・B・C

- (1) 題材の目標 親しみのある美術作品に触れ、感じたことや気付いたことをもとにして、イメージをふくらませ、発想し構想を練り、工夫しながら表現する。

Point

この題材は、一人一人の児童が、親しみやすい美術作品との出会い(鑑賞活動)をきっかけとして、自由にイメージをふくらませ、思い描いたことなどを自分らしく表現することを目的とする。またさらに、児童同士の相互作品鑑賞を意図的、積極的に取り入れ、活動の全体を構成している。

I 美術作品を選ぶ際は…

今回は19世紀～20世紀初頭にかけての作品から選んだ。動植物や機関車・気球などの乗り物、また子どもが遊んでいる場面や空想的で夢が広がるような作品を選んだ。

II 著作権について…

美術作品をコピーして切って貼る活動であることから、美術作品の大切さや著作権について、事前に分かりやすく説明した。

(2) 題材の評価規準及び学習活動に即した具体的な評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
美術作品に関心をもち、感じたことなどから、イメージをふくらませ、表したいことを表現することを楽しむ。	感じたことや気づいたことからイメージをふくらませて、表したいことを発想し、それを表現するために構想を練る。	表したいことに合わせて、表し方や材料、用具などを自分で選んだり、工夫して使ったりしながら、表現活動を進める。	美術作品や友だちの作品に触れ、感じるままに見たり、よさや面白さ、感じの違い等を、気付いたり考えたりする。
①美術作品に関心をもちて見る。 ②イメージをふくらませ、思い描いたり考えたりすることを楽しむ。 ③コピーを切って貼ったり描いたりして、表したいことを表現することを楽しむ。 ④友達の作品のよさや面白さなどについて関心をもちて見る。	①イメージをふくらませ、表したいことを発想する。 ②自分の発想を基に、コピーを切って貼ったり描いたりして、表したいことが表現できるように構想する。 ③製作の過程で新たな発想を加えたり、新たな方法を考えたりする。	①自分の表したいことや自分の思いが生かせるよう、切り取ったり貼ったりする。 ②表し方や、糊や絵の具やペン等の材料や用具などを、自ら選んだり工夫して使ったりする。	①美術作品について、よさや面白さを感じ気付き、考えながら見る。 ②友達の作品のよさや面白さ、感じの違いを見付けたり、共感したことなどを話し合う。

【「十分満足できる」状況(A)と判断する具体的な視点】

ア 造形への関心・意欲・態度

たくさんの作品を見たがっている。黙々と一生懸命描いている。最初すばやく準備し、終わりのときも続けたくて仕方がなさそう。…

イ 発想や構想の能力

試行錯誤しながらいくつもの案をつくる。表したいことに基づき計画を立てている。奇抜な発想で獨創性があり周囲も感嘆。構想を何度も練り直し向上している。…

ウ 創造的な技能

形の輪郭を意識して丁寧に切り取っている。美術作品の一部をマチエールとして活用している。ムラ無くはみ出さず丁寧に縫っている。混色で微妙な色合いの違いを表現できる。…

エ 鑑賞の能力

いくつもの作品を丁寧に見比べながら気に入ったものを探している。作品を見て、なぜそう思うか、その理由を自分の言葉で説明している。友だちとの感じ方の違いを受け止め、感じ方を深めている。…

(3) 題材の指導と評価の計画

時	学習活動	評価 規準	(C)と判断される 子どもの状況	(C)と判断した児童への手立て
1 2	<p>《鑑賞》</p> <p>○美術作品（10 作品）のコピーから気に入ったものを一つ選ぶ。</p> <p>○学習カードに記入する。</p> <p>○気に入った作品について発表（なぜ？どう感じた？）</p> <p>○使いたい作品のコピーをび、案を考える。</p> <p>《作品製作》</p> <p>○コピーを切り取り貼り付ける。</p>	<p>ア①エ① 観察・学習カード</p> <p>ア②③イ①② 観察・作品</p>	<p>作品を選ぼうとしな い。ア</p> <p>どうしたらいいかわ からない。自信がも てない。エ</p> <p>どう貼っていいか分 からない。イ</p>	<p>⇒ある作品を取り上げ面白さを話す。</p> <p>⇒自由に感じ気づくことを認め褒める。 感じたことを言葉で表現しやすいよう に、具体的な言葉の例を示す。</p> <p>⇒まず並べてみるところから始めるよう にする。貼り方の事例や貼った次の様 子を示す。</p>
3 4	<p>《作品製作》</p> <p>○貼ったコピーの部分から、自分 の思い描いたイメージを表現で きるように自由に活動する。 (鉛筆、色鉛筆、水彩絵の具、 ペン類などから自由に選択)</p>	<p>ア③イ② ウ①② 観察・作品</p>	<p>貼り方が雑。ウ</p> <p>どうしていいか分か らず手が止まってし まった。イ</p>	<p>⇒丁寧にふちまで糊を塗って貼る方法を 示す。</p> <p>⇒ただ貼ってつなげることを考えず、新 しい絵を自由につくり上げていけるよ う示す。</p> <p>⇒全体のイメージをつかみながら進めて いる友だちの例を紹介</p>
5 6	<p>《鑑賞》</p> <p>○互いの作品を見て、学習カード に記入。</p> <p>○意見交換をする。</p> <p>《作品製作》</p> <p>○新たな発想や表現方法を取り入 れたりして作品をつくる。</p>	<p>ア④エ② 観察・学習カード</p> <p>ア③イ③ 観察・作品</p>	<p>友達の作品を見よう としない。ア</p> <p>どうしていいか分か らない。イ</p>	<p>⇒面白い線や形を描いている友達の作品 を示す。</p> <p>⇒作品の面白いところの例を示し考えさ せ、どうすればいいか気付かせる。</p>
7 8	<p>《作品製作》</p> <p>○更に貼ったり塗ったりして作業 を続ける。</p> <p>《鑑賞》</p> <p>○自分の作品への思いや、友達 の作品の良さや面白さ等について 発表し合う。</p> <p>○学習カードに記入する。</p>	<p>ア③ウ② 観察・作品</p> <p>ア④エ② 観察・学習カード</p>	<p>作品のよさが見つけ られない。自分の感 想をもてない。エ</p>	<p>⇒作品のよさや面白さを見つけて、言葉 でそれをほめて表現する例を、いくつ も示す。発表できない児童には、挙手 することでまず表現し参加できるよう にする。</p>

(4) 学習カードと評価補助簿の活用

・図工鑑賞カードの例

図工かんしょうカード

4年 組 番 なまえ _____

①コピーを見て、気に入った作品はどれですか？

どんなところが気に入りましたか？

②使いたい他の作品はどれですか？

・座席表形式の評価補助簿の例 (A)と(C)と判断した状況は必ず記入

○月○日 ○・○校時 4年○組

<p>児童名 ○○○○</p> <p style="text-align: center;">関 発 創 鑑</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>気に入った作品を、目を 輝かせながらたくさん持 って来て「先生どうやっ て選んだら…？」</p>	<p>児童名 ○○○○</p> <p style="text-align: center;">関 発 創 鑑</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>作品を選ばず別な場所 でおしゃべり。一緒に選 びに行つて、面白さなど を示すと興味を示した。</p>	<p>児童名 ○○○○</p> <p style="text-align: center;">関 発 創 鑑</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>作品の空の描き方の素晴 らしさについて、本当に感 動した様子で発表してい る。</p>
<p>児童名 ○○○○</p> <p style="text-align: center;">関 発 創 鑑</p>	<p>児童名 ○○○○</p> <p style="text-align: center;">関 発 創 鑑</p>	<p>児童名 ○○○○</p> <p style="text-align: center;">関 発 創 鑑</p> <p style="text-align: center;">C</p> <p>切り方や貼りが雑で、特 にコピーの表面が糊でと ても汚れてしまった。今回 の授業でまず最初にアド バイス</p>

- (1) 題材の目標 自分たちが作りだした作品や暮らしの中の造形作品、親しみのある美術作品のよさや美しさを味わい、自分らしいアートスペースを楽しく作り、プレゼンテーションを行う。

Point

この題材は、自分の目で様々な対象と向き合い、その中からマイ・アート・スペースに展示する対象を選択したり、作りだしたりして、プレゼンテーションを行うという、鑑賞と表現の一体となった活動である。

I 対象を選ぶ際は…

対象の範囲を限定せず、自然がつくる造形や人工的な景観、インテリア、ファッション、日用品などを含め、見慣れた世界を改めて見つめ直していく活動が必要となる。選択の時間を十分(宿題等で2ヶ月ほど)設け、多様な対象と出会えるよう配慮したい。

II 一人一人のマイ・アート・スペースは…

マイ・アート・スペースに展示する対象の展示方法、展示スペースの在り方等は、出来る限り、一人一人の構想を具現化させたい。そのために、体育館の中で自分だけのアート・スペースを、パネルや角材・ベニア・段ボール等を使ってつくる活動を設定したい。

III 相互鑑賞活動は…

本題材では、友達を選択した対象のよさや美しさにふれたり、友達のマイ・アート・スペースに込められた思いや意図に共感したりして、自分の感じ方や見方を明確にし深められるようにしたい。また、相互鑑賞活動によって表現意欲を高め合っていけるようにしたい。

(2) 題材の評価規準及び学習活動に即した具体的な評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
自分のアート・スペースに展示する対象を選択したり、作りだしたり、プレゼンテーションする活動を通して、表現活動や鑑賞活動を積極的に楽しみ喜びを味わおうとする。	見たことや感じたことなどを基に発想し、想像力やデザインの能力を働かせ、自分らしいアート・スペースづくりを構想する。	創造的な技能を働かせたり、材料の特性を生かしたり、組み合わせを考えたりしながら、表し方を工夫する。	自分や友達がアート・スペースをつくる過程やその成果にふれることを通し、様々なよさや美しさを味わい、自分らしい感じ方や見方を深める。
①展示する対象を選んだり、作りだしたり、プレゼンテーションする活動を楽しもうとする。 ②自分の見方や感じ方を大切に、友達の見方や感じ方について分かり合うことを楽しもうとする。	①見たことや感じたことを基に、自分らしいアート・スペースを構想する。 ②自分や友達の活動から、新しい活動を思いついたり、考えたりする。	①創造的な技能を働かせたり、材料の特性を生かしたり、組み合わせを考えたりしながら、表し方を工夫する。	①対象の持つよさや美しさを味わい、自分らしい感じ方や見方を深める。 ②友達の作品の、よさや美しさ、感じの違いを見つけたり、共感したりしたことなどを伝え合う。

《「十分満足できる」状況(A)と判断する具体的な視点》

ア 造形への関心・意欲・態度

アート・スペースづくりの際、展示方法や展示スペースにこだわり、自分が納得いくまで、作り・作り変え・作り続けている。…

イ 発想や構想の能力

アート・スペースのアイデアスケッチにじっくりと取り組んでいる。

つくる過程で、材料の組み合わせや空間構成などのアイデアを次々と思いついている。…

ウ 創造的な技能

アイデアを基に様々な表し方を試み自分の感じたよさや美しさが伝わるような表し方を発見している。…

エ 鑑賞の能力

鑑賞カードに友達の感じ方や見方に触れた感想を、自分と比較しながら具体的に記入している。

マイ・アート・スペースをつくる過程で、自分や友達の表現をじっくりと鑑賞し、自分らしい感じ方や見方を深めるとともに、表現意欲を高めている。…

(3) 題材の指導と評価の計画

時	学習活動	評価 規準	(C) と判断される 子どもの状況	(C) と判断した児童への手立て
1	《鑑賞》 ○いくつかの美術館のビデオやスライドを見て、感想を述べ合う。 ○集めてきた展示品や自らのテーマを基に、アート・スペースの構想を練る。 (アイデアスケッチワークシートへの書き込み)	ア① エ① 観察 ア① イ① 観察 ワークシート	関心をもって見ようとしない。ア なかなかアイデアが、浮かばない。イ	⇒作品などの面白さを具体的に示す。 ⇒自分が面白いと思うものや美しいと思うものを大切に発想することを伝える。 ⇒展示品をつくりだしたり、展示方法を工夫したり、展示ベースをつくりだす活動の例を示す。
2 5	《作品製作》 ○展示品を選び、組み合わせ、実際に展示するものをつくる。 ○展示品の紹介パンフレットをつくる。	ア① イ① ウ① 観察	活動を楽しもうとしない。ア	⇒自分の活動に自信をもち面白さを感じられるよう励ます。
6	《作品製作》 ○展示方法や空間構成の構想を練り、それに必要なものを準備する。(アイデアスケッチワークシートへの書き込み)	ア① イ① ワークシート	アイディアが深まらず具体的な手立てを思いつけない。イ	⇒多様な表現方法があることを、視覚資料で示す。 ⇒スペースの使い方や、スペースづくりに使える材料を具体的に示し、そこから発想を広げられるようにする。
7 8 9	《作品製作》 ○体育館で、マイ・アート・スペースをつくりだす	ア① イ② ウ① 観察	新しい活動や工夫が思いつかない。イ 板と段ボールの貼り方が雑で、何回挑戦してもすぐ倒れてしまう。ウ	⇒他の児童の作品を一緒に見ながら、面白さを発見し、新たな発想や工夫を喚起する。 ⇒ガムテープで接続するときの、場所や貼り方のポイントを一緒に作業しながら示す。
10	《鑑賞》 ○鑑賞会を開き、友だちの感じ方や見方に共感したり、作品のよさや美しさを感じとる。 (ワークシートへの書き込み) 全員で意見交換する。	ア② エ② 観察 ワークシート	友達の感じ方や見方に興味をもとうとしない。ア 友達の作品のよさや面白さが見つからない。エ	⇒鑑賞の視点を具体的に示し、自分の感じ方や見方との違いに着目させる。 ⇒ある作品を一つ取り上げ、よさや面白さを言葉で表現する例を示す。気に入った作品を一つ選ばせ、それについて書けるように支援する。

(4) 学習カード・評価補助簿の活用

・学習カード

・評価補助簿(出席番号順)(A)と(C)と判断した状況は必ず記入。

①

マイ・アート・スペースをつくろう ()

☆こんな作品をかざりたい

☆こんなかざり方をしたい

☆こんなスペースはどうだろう

アイデア・スケッチ

②

友達のアート・スペースを見て発見したよ

() さんのアート・スペースで

() さんのアート・スペースで

5年 組		月 日			
No	氏名	関・意・態	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	〇〇	A B C 友達の感想を聞こうとしない。友達の見方や感じ方の表れた言葉に着目させる。次第に話をしっかり聞くようになる。	A・B・C	A・B・C	A・ B ・C
2	☆☆	A・B・C 友達の感想を積極的に聞き、自分の感じ方との違いについて発表する。	A・B・C	A・B・C	A・B・C ワークシートに10行も感想を書く。特に、アート・スペースの展示物の統一感についての文章は素晴らしい。

V 研究のまとめ

～個に応じた指導に生かす評価の在り方～

平成13年度・14年度・15年度の3年間にわたり、「A表現（2）絵や立体に表したり、工作などに表す」、「A表現（1）材料などをもとにした楽しい造形活動（造形遊び）」、そして「B鑑賞」について、全ての児童に図画工作科ではぐくむべき資質や能力を、確実に身に付けさせていくことを目指し、指導の工夫と評価の在り方に関して研究開発を行ってきた。

この3年間の取組について、研究の成果を以下にまとめる。

1 喜びのある活動を通して、基礎的な能力の育成を図る

- 一人一人の児童の造形活動は、その児童なりの進め方で、先へ進んだり後戻りしたりしながら、極めて多様な活動として展開される。それは、鑑賞活動における、自由に感じ、気付き、考える活動においても同様である。
- 新しい学習指導要領の、目標の改善の要点には、「児童が、自らつくりだす喜びを味わえるよう、個性を生かした多様で創造的な活動を促すようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成することを一層重視する。」とある。
- これらの点から明らかなように、一人一人の児童が造形表現活動や鑑賞活動の喜びを味わいながら、自分らしく活動に取り組み、その過程で自然と基礎的な資質や能力が確実に育成されるような題材の設定と指導の工夫が重要である。

2 過程を重視した評価により、指導と評価の一体化を図る

- 「資質・能力を育成する視点をより明確にした図画工作」として、過程を重視した細やかで的確な評価と、個に応じた指導の充実を図っていかなければならない。
- 活動する児童の様子や表情等から多面的に評価情報を集め、その都度的確な励ましや指導の手立てを講じ、指導と評価の一体化を図り、さらに評価情報を記録として残し蓄積していくことが重要である。

3 鑑賞活動における指導の工夫と評価の在り方について

- 大人の造形美術に対する認識や価値観を教え込むような授業ではなく、児童一人一人の資質や能力が、生き生きと発揮されはぐくまれるよう、児童が能動的・主体的に鑑賞活動に取り組む題材の設定が重要である。
- 児童は、子どもらしい感じ方・見方で、型にとらわれず自由奔放に感じ、気付き、考える。また様々な美術作品は、その作品の有する質的な深さや広がりから、児童にとっての様々な感動や驚き、新たな発想などを大いに喚起させる。それらの、児童が自由に感じたこと考えたことを大切にしながら、感じ合い高め合う活動を展開するには、教師が児童の様子をもとに、的確な指導の手立てを適宜講じていくことが極めて重要である。
- また、鑑賞活動の充実のための工夫として、以下のような点を挙げることができる。

場の工夫	①図工室や校内に作品展示コーナーを設置し常に鑑賞・交流ができる場の設定。
情報	①画集、図鑑やインターネットの活用により様々な作品に触れる機会の充実。
地域の環境	①美術館、博物館などとの連携を図り学習に生かす（ギャラリートーク等）。 ②伝統工芸、歴史的建造物などを取り上げ学習に生かす。 ③アーティスト、職人の方々などとの交流を通して学ぶ活動の設定。